

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												結核	NIKEI NET いき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアキノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同等された。
												アルツハイマー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	アルツハイマー病患者、またはβ-アミロイド前駆体タンパク質(APP)発現トランスジェニックマウスから得たアミロイド-β(Aβ)含有脳抽出物の希釈液を大脳内に注射すると、APPトランスジェニックマウスに、時間と濃度に依存した大脳内のβ-アミロイドシストとそれに伴う病変を誘発した。脳抽出物のシードイング活性は、Aβ免疫除去、タパンク変性、またはAβを宿主に免疫することによって、低下または消失した。外因性に誘発されたアミロイドシスの表現型は、宿主と誘導物質の両者に依存した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aとについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイビーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。
												トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。